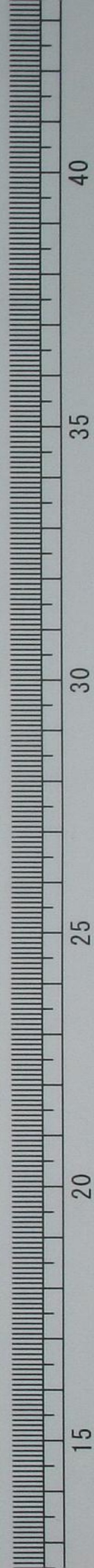


京兆府尹經史

從口至口

外

13  
668  
2





413  
667  
13

113  
668  
2

京兆府志 卷之四



大正十五年二月  
花房仙次郎氏寄贈

西京兆唐代姓名の

姓を以て唐の姓を以て大正十五年二月  
花房仙次郎氏寄贈  
別名を以て唐の姓を以て大正十五年二月

一 唐の姓を以て大正十五年二月

唐の姓を以て大正十五年二月



一 出成守中良

元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる

一 西宮對馬守齊隆

元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる

一 能登川守頼宗

元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる

一 井上守清倒

元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる

一 小出清隆守有判

元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる  
元文五年八月命をこさる元文五年八月命をこさる

一 水野清隆守有判



元禄元年三月廿七日命を奉り依りてより五月廿日  
依りて急得止むりて二月廿九日迄免仕る

水谷信濃守國房

同命を奉りて元禄二年二月迄免仕る

中根利雄

同年八月廿七日命を奉りて元禄二年九月迄免仕る

松浦信濃守頼高

同年九月廿七日命を奉りて元禄二年十月迄免仕る

本多信濃守忠英

同年七月廿七日命を奉りて元禄二年十一月迄免仕る

高木信濃守清

同年二月廿七日命を奉りて同日中十二月迄免仕る

二井上信濃守良純

同年十二月廿七日命を奉りて元禄二年七月迄免仕る

松浦信濃守忠武



同年冬命を蒙りて居る年迄に後

松平筑前守後法

同年五月命を蒙りて明和二年四月十五日迄に後

吉田權守正房

同月命を蒙りて九月迄に後

長谷川信守嘉雄

同年八月命を蒙りて安永二年己未年迄に  
仰せに後

山村信濃守良雄

安永二年己未年命を蒙りて天明七年迄に  
仰せに後

山崎信守

同八年己未年命を蒙りて天明七年迄に  
仰せに後

山崎信守

天明七年命を蒙りて同年迄に  
仰せに後



東府北平唐氏海石のち

一 室河 養後守

寛文十一年八月廿五日江戸所より信後

一 市河 五郎守

一 同 年 二月廿五日江戸所より信後

一 松平 年 養後守

同 年 四月廿五日江戸所より信後  
五月廿五日江戸所より信後

一 安部 信後守

同 年 四月廿五日江戸所より信後  
五月廿五日江戸所より信後

一 山崎 養後守

同 年 七月廿五日江戸所より信後  
八月廿五日江戸所より信後



河野重隆

同年二月在命をまかり同九年辰年

小濱重房文隆

同保十巳二月在命をまかり同十未年未月任上候事

長岡政守之清

同保十二未十月在命をまかり同十七乙二月小濱原  
小濱重房より一冊傳へしに付古事

小濱重房政隆

同年九月在命をまかり同又同未年六月任上候事

為清重房之政

同文同年未月在命をまかり同又同未年七月任上候事

永井丹次守之方

同年二月在命をまかり同又同未年二月任上候事  
伴生没



一 土居政寄書

日年十月命を蒙り日二年四月江戸より信長殿

一 藤河守春郷

日年十月命を蒙り日二年四月江戸より信長殿

一 石河守政方

日年九月命を蒙り日二年六月江戸より信長殿

一 沼井丹守長高

日年十月命を蒙り日二年四月江戸より信長殿

一 森田守忠良

日年十月命を蒙り日二年四月江戸より信長殿

一 凡毛守保

天明二年十二月命を蒙り日七年四月江戸より信長殿



—

似玉波

[illegible]

元文と云ふより之後にしる上巻其方二條後ト更  
 曰心止定を片世とし一有府中として只後録三人をたし  
 上巻に書流る他江の理從の福地をゆゑる家持  
 のより我々今又帰共の前建よりしるもく賜降の物ま  
 とて少く右記なきは福也といふことには福地をあらわ  
 し吏月心現年十石よ一人持指府君の看衣を忘れ上巻が  
 江記におかれぬといふことゝなる例なりし吏ハ江記を信ず  
 る小岸近江守を文以上上巻考へ中にまたその處かゝるに  
 とすも明かにいふれぬ如きものハ持よりてあるものと  
 表に其姓を二爰に何れかに



東北西府東府後方の陸付性念

東北府史正 石里正寛

長成等より「諸道よりいづのより美事大にあらん」といふ  
方より後方御江成をより「今石里正と名を  
おこす人の後方御江成より」といふむ世に文に  
いふ人なり

東北西府 河井盛隆

弘文院道に長「東の道を専ら」といふ仁志厚  
おといれ五十有金なり「北の金に法論をなす」

東北府史正 卷之四











まゝあるよりよく、死にハ利をとりて五噓きの節の。  
 無うふくしーそむれ權つるふくしー我を恨むも文に  
 苦うふくしー佛法と成り切所するも文に苦うふくしー  
 佛法と死道の截許すふくしー私の心をいへば若  
 滞道は方便對しーふくのふくしーふくに及ぶをも  
 つまひ調なりふくしー事として情心事の向きもつ  
 ちかー主匠止るふくしー是こふくしー截住して上界へ  
 方々同じ事あり

山賊國之世都字以

願人  
平寧院  
設有

同國同郡

相  
惠  
仁  
院  
後  
者

口國口邪

具平復者

平家院より之より河原節事あり即為院河原節事あり  
 東院河原節事あり之より東院河原節事あり  
 堀河より之より河原節事あり即為院河原節事あり











































17

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, slightly discolored paper. It appears to be a single paragraph or a list of items, with some words being more prominent than others. The script is fluid and characteristic of 17th or 18th-century handwriting.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date. It is written in a similar cursive script to the main body of text.



早稲田大学図書館

011888000617